平成 29 年 12 月 5 日
九 州 地 方 整 備 局
大隅河川国道事務所

平成２９年土石流調査情報（桜島地域） 第２３報

（通算第 187 号）

○ 桜島の噴火による降灰は、前年同期間（1 月～10 月）と比較して約１．９倍となっています。

○ 土石流発生回数は、前年（平成 28 年１月～１１月）は２５回であり今年は、１７回の発生となっています。

１ 桜島の噴火による降灰の状況

平成 29 年 10 月 1 日から平成 29 年 10 月 31 日までの約１ヶ月の桜島 18 カ所の降灰量観測所における最大の降灰量は、野尻川観測所（Ｎｏ.10）で 2.5kg/㎡でした。また、降灰量の 18 観測所の１月から１０月の合計値は、前年比で約 1.9 倍となっています。

資料－１ 桜島の降灰量図
資料－２ 降灰状況
資料－３ 平成 28 年（1 月～10 月）及び平成 29 年（1 月～10 月）の降灰量比較

２ 土石流の発生状況

平成29年11月1日～30日の間、桜島の１１河川においては、土石流は発生しておりません。

また、平成29年1月から11月末までの土石流発生回数は、平成28年の同時期の25回の発生に対し17回発生しています。

図－１ 桜島の直轄河川位置図（全11河川）
資料－４ 平成28年及び平成29年（1月～11月）の土石流発生回数比較
資料－５ 各渓流における土石流発生状況（平成28年1月～及び平成29年11月）
資料－６ 年間（暦年）・河川別土石流発生回数

３ 土石流災害の危険性

平成２８年の桜島における爆発的噴火の回数は、ここ数年に比べ極端に少なかったですが、平成２９年４月２６日の噴火以降、活発な噴火活動が継続しています。土石流の発生回数は、平成２７年１月～１２月末までの４５回に対し平成２８年は１月～１２月まで２５回発生しました。

平成２９年の土石流の発生については、４月に有村川において発生したのをはじめ、１１月末まで有村川、野尻川、黒神川において合計１７回発生しています。

これまでの噴火により火山噴出物が堆積しているため土石流が発生する危性が低下している訳ではありません。

※桜島の爆発的噴火の回数

平成２７年１月１日～１２月３１日まで７３７回

平成２８年１月１日～１２月３１日まで　４７回

平成２９年１月１日～１１月３０日まで　８１回

今後、鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

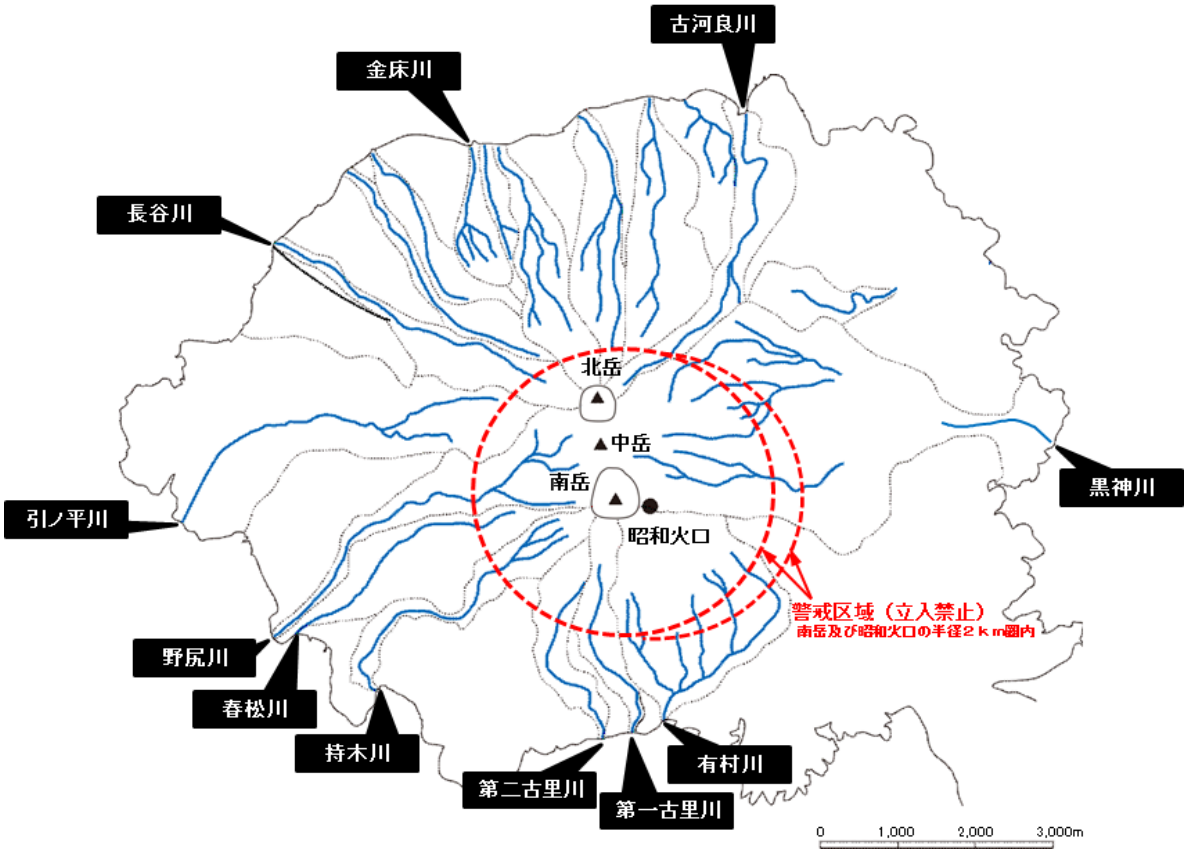
資料－７　年間（暦年）・土石流発生と噴火回数の関係

資料－８　土石流発生直前の降水量（平成 21 年 3 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日）

４　今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第 31 条第 2 項に基づく情報の随時提供です。



図－１　桜島の直轄河川位置図（全 11 河川）